

開創二十五周年記念事業趣意書

仮本堂を建てて「善光寺」と命名してより、はや四半世紀を閲しました。まことに光陰矢の如しというべく、月日のたつのは早いものであります。

今日を迎えられましたこともこれひとえに仏天の加護のもと、檀徒の皆様の大なる御協力御支援の賜物で、感謝感激にたえないところであります。

思えば開創して十五年間は釈迦殿の建立整備に向かつての寺檀一体の精進の日々でした。

昭和五十七年めでたく釈迦殿が完成しましたので、翌年開創十五周年を記念して、本尊脇仏造頭、大般若経六百巻を勧請し、そして報恩行の一端として翌々五十九年に海外留学僧派遣育英会を設立し、六十年より留学僧を派遣し今日に及んでおります。

ついで平成元年、開創二十周年にあたり、主として不動殿の整備を記念事業とし、大日如来像をはじめ、薬師・阿弥陀の二如来像及び不動明王眷属、矜迦羅、制陀迦の二童子像の造立・須弥壇の整備等をおこないました。

何しろ三百年五百年の歴史を持つ寺々の間に伍してのことでありますので、矢継ぎ早やではありません

したが、さいわい檀家の皆様の御協力により目的を達成することができました。

さて本年は開創二十五周年記念にあたりますので、これまでの締めくくりとして次の記念事業を目標として論じております。

右趣意書にもとづき、檀徒の皆様のご協賛をいただき、左の事業を実施しました。

一、開創二十五周年記念式典の実施

五月三十日、大本山總持寺を会場として、梅田禪師様御親修法要と記念式典、祝宴の実施

二、善光寺留学僧育英会設立十周年記念式典の実施

大韓民国、仏宝宗刹・通度寺方丈老天月下猊下を拝請、三月末当山において実施

三、記念出版物の刊行

イ、『法燈の国際化をめざして』（『法燈は海を越えて』、留学僧論文集第二集の刊行
ロ、「善光寺の歌」CD及びカセット・テープの作成

四、内外の整備

建物・什物等の小修理

五、錦戸新觀先生造頭の聖徳太子坐像の勧請

平成六年八月吉日

開創二十五周年記念の祝典

「法燈の国際化」に称賛

成寿山善光寺開創二十五周年の記念式典が五月三十日午前十一時から、横浜・鶴見の大本山總持寺において、檀信徒五百人余の皆様が参集して盛大に行われました。

善光寺は昭和四十四年、ゼロから出発して二十五年の間に、幅広い活動とともに、開創十五周年を記念して設立した「横浜善光寺留学僧育英会」を通して国際的な育英事業を展開しており、日本佛教の新しい生き方として海外からも注目されています。

總持寺大祖堂で記念法要

記念行事は、總持寺大祖堂での記念法要で始まりました。法要に先だって、留学僧育英会常務理事の佐藤俊明老師（千葉県柏市・龍光寺住職）が法話を行い、引き続き大本山總持寺賞首・梅田信隆禪師さまの御親修により法要が営まれ、『修証義』読誦の中を参列した檀信徒全員が、佛祖の真前に焼香しました。



記念式典

大祖堂地下の瑞応殿での記念式典は、式典副委員長の越石周平氏（善光寺護寺会長）が開式の言葉を述べ、まず、来賓として出席された大本山總持寺の齋藤信義監院が總持寺と善光寺の深い因縁を話して次のように祝辞を述べられました。

「善光寺開山の黒田白純老師は昭和二十六年に總持寺副監院として、当時の渡辺玄宗禪師、大道英仙監院をお支えいただいた。

本山が能登からこの地へ移って八十四年の歴史がある。戦後一番苦勞されたのが渡辺禪師であり、弧峰智璨禪師だ。その時に黒田老師が御尽力された。この方が善光寺の御開山であり、そのお心を継いだお弟子様方が、善光寺方丈をはじめ皆さん御活躍されている。

善光寺様は法燈の国際化を目指して育英会をやっておられる。このような華々しい活躍をしているのは宗門でも善光寺様だけだ。この瑞応殿に「法堂上に鉢を挿む人を見る」という瑩山禪師の最期のお言葉が掛かっており、日々この言葉を重く受けとめているが、善光寺様はこれを実践しておられる」

また鶴見大学の高崎直道学長は、

「欧米では二十五年を区切りとして銀の祝い



とする。本日は善光寺とお檀家さんの銀婚式だ。新しい寺を開かれ、しかも二十五年の間に檀信徒三千家を持たれたことは大変なこと。行の実践は当然のことのように見えて、なかなかできない。発菩提心の人を菩薩というが、菩薩の行を実践しておられるのが黒田老師である。法華経の中に常不軽菩薩という方がある。黒田老師は、全ての人に佛の心があり、共どもに世の中をよくしていこうという願いを持っておられる方だ」

と、黒田住職の願行を讃えました。

さらに、天台宗総本山比叡山延暦寺の今出川行雲教化部長は、故・山田恵諦座主と善光寺との法縁に触れながら、

「山田座主は世界に向かって佛教者は何を成すべきかを常に説かれた。そして善光寺留学僧育英会に注目し、私を身代わりにして黒田さんに急接近した。黒田さんの仕事は世界に向けて

の人づくりだと思う」

と、善光寺の育英会を高く評価して、祝意を表わしました。

開基家の村岡有尚氏、総代表の伊藤喜三郎氏、檀信徒代表の大津正二氏らに感謝状、表彰状が贈呈された後、善光寺総代で防衛医科大学教授の中村治雄氏が、「長生きの秘訣」と題して記念講演を行いました。

中村氏は、①塩分をできるだけ控える。②油の質を選び、固まっている油は減らす。③繊維の多い野菜・果物をたくさん食べる。④できるだけ身体を動かす——などユーモアを交えて健康の基本を話しました。

式典委員長の伊藤喜三郎氏が「日本の佛教の中でも善光寺ほど檀信徒が増えた寺はないと思う。育英会に対する方丈様の情熱が実を結んできた。必ずや世界平和に貢献すると思う」と挨拶し、本寺の栃木県大田原市・光真寺住職黒田

俊雄老師は「皆さんの御理解と情熱に心から御礼申し上げる。善光寺方丈とは兄弟だが、育英会の浄行に対して感謝している」とお礼の言葉を述べました。

祝電はタイ国ワット・パクナムのプラ・タム・パンヤー・ボデー住職、韓国曹溪宗通度寺の老天月下方丈、ロサンゼルス禅センターの前角博雄主管、曹洞宗ハワイ開教総監部の松浦玉英総監、南米開教総監部の森山大行総監など海外か



伊藤三喜庵氏

らも寄せられました。

記念の祝宴

三松閣に会場を移しての祝宴では、開基家・村岡弘義氏の挨拶に続いて黒田住職が、

「皆さん本当に有り難うございました」と感極まった様子で謝辞を述べ、善光寺育英会十周年の記念出版『法燈の国際化をめざして』を手がけた神奈川新聞社出版局長の宮川康吉氏が開創二十五周年を祝う乾杯の発声を行いました。

